

## 薩摩半島南西沖から得られた鹿児島県初記録のナンヨウキホウボウ

中村潤平<sup>1</sup>・藤井琢磨<sup>1</sup>・船川賢治<sup>1</sup>・広瀬 純<sup>1</sup>・池端博文<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

## Author &amp; Article Info

<sup>1</sup> いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）  
 JN: j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)  
<sup>2</sup> 南さつま漁業協同組合（南さつま市）  
<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）  
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 24 November 2021  
 Revised 24 November 2021  
 Accepted 24 November 2021  
 Published 25 November 2021  
 DOI 10.34583/ichthy.14.0\_39

Jumpei Nakamura, Takuma Fujii, Kenji Funakawa, Jun Hirose, Hirofumi Ikehata and Hiroyuki Motomura. 2021. First Kagoshima record of *Scalicus orientalis* (Peristediidae) from off the Satsuma Peninsula, southwestern Kyushu, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 39–42.

## Abstract

A single specimen (77.6 mm standard length) of *Scalicus orientalis* (Fowler, 1938) (Peristediidae) was collected from southwest of the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. In Japanese waters, *S. orientalis* has previously been recorded only from Tosa Bay and the western slope of Okinawa Trough in the central East China Sea. Therefore, the present specimen represents the first record of the species from Kagoshima Prefecture.

キホウボウ科魚類 Peristediidae は世界の熱帯から温帯にかけて 6 属 47 有効種が知られており、水深約 50–800 m の海底に生息する (Kawai, 2008, 2019)。インド・太平洋に分布するヒゲキホウボウ属 *Scalicus* Jordan, 1923 にはトウホウソコキホウボウ *Scalicus engyceros* (Günther, 1872)、ヒゲキホウボウ *Scalicus hians* (Gilbert and Cramer, 1897)、ナンヨウキホウボウ *Scalicus orientalis* (Fowler, 1938)、ウスヒゲソコキホウボウ *Scalicus paucibarbus* Kawai, 2019、ソコキホウボウ *Scalicus quadratorostratus* (Fourmanoir and Rivaton, 1979)、およびトゲキホウボウ *Scalicus serrulatus* (Alcock, 1898) の 6 有効種が含まれ、6 種すべてが日本近海に分布する (Kawai, 2019; 本村, 2021)。

2021 年 9 月 21 日に鹿児島県薩摩半島南西沖の水深 405 m 地点において 1 個体のヒゲキホウボウ属魚類が底曳網漁により漁獲され、ナンヨウキホウボウに同定された。ナン

ヨウキホウボウはインド・西太平洋に分布し、これまで国内からは土佐湾と東シナ海中央部の沖縄トラフ西部陸棚斜面からのみ記録されていた (山田・柳下, 2013; Kawai, 2019)。したがって、薩摩半島産標本はナンヨウキホウボウの鹿児島県近海における初めての記録となるため、ここに報告する。

## 材料と方法

計数・計測方法は Kawai (2019) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真 (Fig. 1) に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

*Scalicus orientalis* (Fowler, 1938)

## ナンヨウキホウボウ

(Figs. 1, 2; Table 1)

**標本** KAUM-I. 161473, 体長 77.6 mm, 鹿児島県薩摩半島野間岬南西沖 (野間岬と宇治群島・草垣群島の間中海域; 31°10'N, 129°52'E), 水深 405 m, 底曳網, 2021 年 9 月 21 日, 豊栄丸。

**記載** 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) は Table 1 に示した。体は前後方向に長く、頭部から尾柄部前にかけて縦扁し、尾柄部はやや側扁する。体背縁は前上顎骨前縁から眼の上部にかけて上昇し、そこから背鰭基部にかけては体軸とおおむね平行、その後、尾柄部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は前上顎骨前縁から下顎先端にかけて下降し、そこから尾柄部にかけては体軸とおおむね平行。吻部に 1 対の骨質の吻突起を有する。吻突起は扁平な長三角形で、先端は鋸歯状。口は下位で、大きい。両顎に歯はない。下唇には 6 対の鬚を有する。最外の唇鬚は長く伸長し、分枝数が 24、分枝間に皮膜がある。下顎には

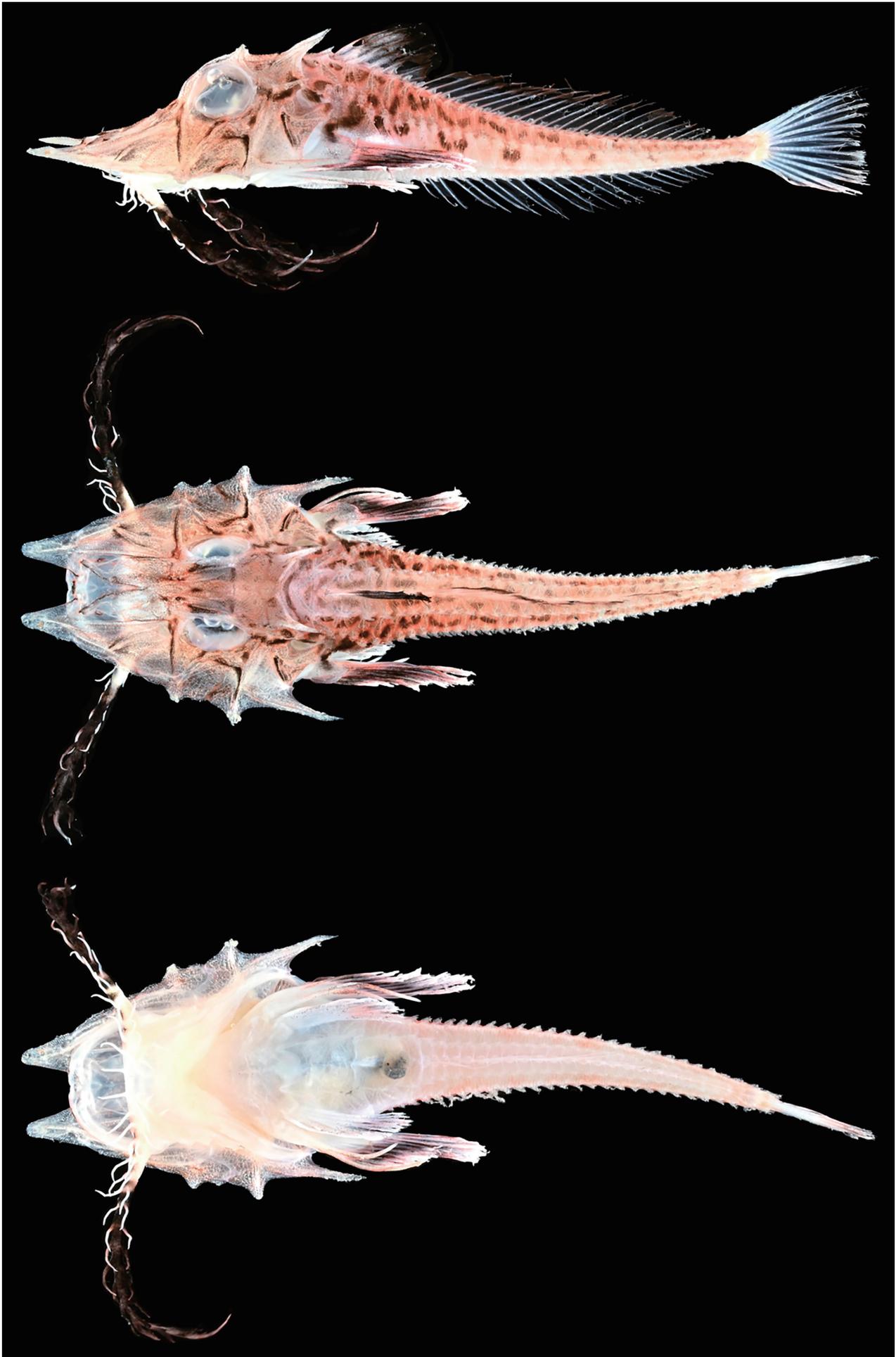


Fig. 1. Fresh specimen of *Scalicus orientalis* (KAUM-I. 161473, 77.6 mm SL) from off the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. Top to bottom: lateral, dorsal, and ventral views, respectively.

3 対の鬚を有する。眼は正円形。頭部の棘は発達する。体は骨板に被われる。体側の骨板は 4 列で、それぞれの骨板に 1 本の後向棘を有する。骨板に前向棘はない。肛門は臀鰭起部直前に位置する。背鰭起部は胸鰭基底上端の直上付近、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より後方にそれぞれ位置する。胸鰭後端は背鰭第 6–7 軟条間に達する。胸鰭の下部 2 軟条は遊離する。腹鰭起部は胸鰭基底下端の直上に位置し、たたんだ腹鰭の後端は肛門前縁を越える。臀鰭起部は背鰭第 2 軟条起部直下に位置する。尾鰭は截形。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体側は桃色で、背面は赤みが強く、腹面は白色がかかる。頭部には不規則な黒褐色線がはいり、体側には不定形の黒褐色斑が散在する。吻突起は白色半透明。下唇と下顎の鬚は最外の唇鬚を除き白色。最外の唇鬚は基底部周辺が白色で、大部分は赤みが



Fig. 2. Head of fresh specimens of *Scalicus orientalis* (KAUM-I. 161473, 77.6 mm SL; dorsal view).

かる黒色、先端部と分枝の一部は白色。背鰭は基底部周辺が淡い桃色で、縁辺部は赤みがかかる黒色。胸鰭は赤みがかかる黒色で、縁辺は白色。腹鰭、臀鰭、および尾鰭は大部分が白色で、縁辺の一部は桃色がかかる。

**分布** マスカリン諸島 (レユニオン)、アラビア海 (ソコトラ島)、モルディブ、アンダマン海、インドネシア (スマトラ島、ジャバ島、およびモルッカ海)、フィリピン、台湾、日本、西オーストラリア、およびニューカレドニアの水深 357–510 m から記録されており、国内においては土佐湾と東シナ海中央部の沖縄トラフ西部陸棚斜面からのみ記録されていた (河合・矢頭, 2008; 山田・柳下, 2013; Kawai, 2019; Psomadakis et al., 2020; Fricke, 2020)。本研究により新たに東シナ海北部の鹿児島県薩摩半島南西沖における分布が確認された。

**備考** 記載標本は上顎に歯を欠く、頭部縁辺が円滑、下側列最後部の骨板が互いに離れる、下顎の鬚が最外の唇鬚と下顎鬚を除き分枝しない、および背鰭と臀鰭の軟条数がともに 21 であることが Kawai (2019) が定義したヒゲキホウボウ属 *Scalicus* と一致し、吻突起が長三角形 (Fig. 2)、吻突起長が吻突起幅の 1.50 倍、唇鬚数が 5、下顎鬚数が 3、最外に位置する唇鬚の分枝数が 24、最外に位置する唇鬚の分枝間に皮膜がある (Fig. 2)、最外に位置する唇鬚の長さが標準体長の 35.1%、最後方に位置する下顎鬚が分枝しない、および体後部の上側列の骨板に前向棘を欠くなどの特徴により Kawai (2019) が報告したナンヨウキホウボウ *S. orientalis* の標徴と一致したため、本種に同定された。

ナンヨウキホウボウの国内における分布記録は分布の項の通りであり、記載標本は鹿児島県近海および東シナ海北部からの本種の初めての記録となる。また、記載標本は薩摩半島西端の野間岬と宇治群島・草垣群島間の水深 405 m 地点においてタカエビ漁 [ヒゲナガエビ *Haliporoides sibogae* (de Man, 1907) を漁獲対象とする底曳網漁] の混獲物から得られた。近年、薩摩半島周辺海域から底曳網によって採集された分布の新知見となる魚類が多数報告されており (例えば: 目黒・本村, 2011; 和田ほ

Table 1. Counts and measurements of *Scalicus orientalis* from off the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

	KAUM-I. 161473
Standard length (mm; SL)	77.6
<b>Counts</b>	
Dorsal-fin rays	VII, 21
Anal-fin rays	21
Pectoral-fin rays (incl. 2 detached rays)	16
Pelvic-fin rays	I, 5
Principal caudal-fin rays	10
Bony plates in dorsal row	30
Bony plates in upper lateral row	35
Bony plates in lower lateral row	25
Bony plates in ventral row	26
Bony plates before anus	2
Gill rakers	6 + 21
Barbels (lip + chin)	5 + 3
Branches on filamentous barbel	24
Branches of posteriormost chin barbel	1
<b>Measurements (% SL)</b>	
Body depth	17.3
Body width	12.1
Head length	38.4
Head depth	16.4
Head width	32.1
Snout to dorsal-fin origin	38.7
Snout to anal-fin origin	49.5
Snout to anus	46.0
Snout length	18.6
Rostral projection length	8.5
Rostral projection width	5.7
Filamentous barbel length	35.1
Upper-jaw length	14.8
Lower-jaw length	15.1
Orbital diameter	9.4
Interorbital width	8.1
Preopercular spine length	14.8
Pectoral-fin length	23.1
Length of upper free pectoral-fin ray	21.3
Length of lower free pectoral-fin ray	17.8
Pelvic-fin length	18.7
Length of first dorsal-fin spine	11.6
Caudal-peduncle length	9.7

か, 2019, 2021; 藤原ほか, 2019; 中川ほか, 2020; 中村ほか, 2020; 渋谷ほか, 2021; 橋本ほか, 2021a, b; 古橋ほか, 2021), 鹿児島県の深海性魚類の種多様性を把握する上で底曳網漁業混獲物の詳細な調査は重要であると考えられる。

## 謝 辞

本稿執筆に際し、豊栄丸(南さつま漁業協同組合)のみなさま、および笠沙町漁業協同組合の伊東正英氏には標本の採集にご協力いただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏博士と鹿児島大学農林水産学研究所の中川龍一氏にはヒゲキホウボウ属魚類の種同定に際してご助力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同博物館のボランティアのみなさまには標本の登録・管理にご協力いただいた。Ichthy 編集委員の松沼瑞樹博士には原稿に対して有益な助言をいただいた。上記の方々には深く感謝申し上げる。鹿児島県初記録となるナンヨウキホウボウの標本は、かごしま水族館の「令和3年度後期いおっ子海っ子体験塾」のイベント開催中にスタッフと参加者のみなさまによって、タカエビ漁混獲物の中から発見された。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費(20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型(CREPSUM JPJSCCB 20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

## 引用文献

- Fricke, R. 2020. New record of the Oriental armoured gurnard *Scalicus orientalis* (Fowler 1938) from La Réunion, southwestern Indian Ocean (Teleostei: Peristediidae). *FishTaxa*, 16: 1–7. [URL](#)
- 藤原恭司・久米 元・本村浩之. 2019. 鹿児島県から得られたシャチブரி科の稀種ヒョウモンシャチブரி. *Nature of Kagoshima*, 46: 155–158. [URL](#)
- 古橋龍星・大富 潤・本村浩之. 2021. 甌島列島近海から得られた九州初記録のマメオニガシラ(オニガシラ科). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 11: 12–16. [URL](#)
- 橋本慎太郎・伊東正英・本村浩之. 2021a. 薩摩半島西岸から得られた鹿児島県本土初記録のキントキダイ科魚類ウスベニキントキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 8: 60–63. [URL](#)
- 橋本慎太郎・伊東正英・大富 潤・本村浩之. 2021b. 標本に基づく鹿児島県初記録のアカグツ科魚類アミメフウリュウウオ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 26–30. [URL](#)
- Kawai, T. 2008. Phylogenetic systematics of the family Peristediidae (Teleostei: Actinopterygii). *Species Diversity*, 13:1–34. [URL](#)
- Kawai, T. 2019. Revision of an armored searobin genus *Scalicus* Jordan 1923 (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) with a single new species. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-019-00691-z (Apr. 2019), 66: 437–459 (Nov. 2019).
- 河合俊郎・矢頭卓見. 2008. キホウボウ科ナンヨウキホウボウの種名. *魚類学雑誌*, 55: 61–62.
- 目黒昌利・本村浩之. 2011. 鹿児島県野間池沖から得られたボウズカジカ *Ebinania brephocephala* (カサゴ目: ウラナイカジカ科) の記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 27–29. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2021. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 12. [URL](#)
- 中川龍一・伊東正英・本村浩之. 2020. 九州初記録のムラサキヌタウナギおよび鹿児島湾から得られたヌタウナギ属の未同定個体. *Nature of Kagoshima*, 46: 351–354. [URL](#)
- 中村潤平・西田和記・本村浩之. 2020. 甌島列島近海から得られた九州初記録のバラムツ *Ruvettus pretiosus*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 1: 19–21. [URL](#)
- Psomadakis, P. N., H. Thein, B. C. Russell and M. T. Tun. 2020. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. FAO species identification guide for fishery purposes. FAO and MOALI, Rome. xvii + 694 pp., 63 pls. [URL](#)
- 渋谷駿太・伊東正英・本村浩之. 2021. 薩摩半島南西沖から得られたソコカワムキ(フグ目ベニカワムキ科): 国内における土佐湾以外からの初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 5: 20–23. [URL](#)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2019. 薩摩半島南西沖から得られた東シナ海3例目のマルカワカジカ. *Nature of Kagoshima*, 46: 151–154. [URL](#)
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之. 2021. 薩摩半島南西沖から得られた鹿児島県初記録のイトヒキカガミダイ, および近縁種であるカガミダイの標徴の再評価. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 43–49. [URL](#)
- 山田梅芳・柳下直己. 2013. キホウボウ科, pp. 727–731, 1951–1952. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.